

米中関係の行方と日本の選択

双日総研チーフエコノミスト

吉崎達彦

- * 安保条約をやり玉にあげるトランプの真意
- * 日米通商協議にいかに対処するか
- * ほぼ全量が自由貿易圏に入る日本の貿易
- * アメリカでは民主党も反中国
- * 2018年3月というターニングポイント
- * 米中交渉が決裂した経緯
- * トランプによる制裁関税の影響
- * 5つあるアメリカの対中強硬派
- * 定期的な米中対話の枠組みが不可欠
- * 日本は米中の狭間でどう生きるか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
すっかりおなじみでございますので、詳しいご紹介は必要ないかと思いますが、今日は吉崎さんにおいでいただきました。

今、米中の問題を中心に、国際的な問題がたいへん動いておりますので、今日は絶好のタイミングで、その辺のところを皆さんにじっくり解説していただきたいと思っております。それでは吉崎さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

安保条約をやり玉にあげるトランプの真意

吉崎 ご紹介ありがとうございます。双日総合研究所の吉崎でございます。

今日は何しろG20がこれから始まるというタイミングです。それ以上に、明日のお昼に予定されている米中首脳会談がどうなるかと。これが万が一決裂するなんてことになる、週明けはいつたいどんな感じでわれわれは迎えることになるんだろうとか、たいへん難しいところがございます。特にこの会合は後で本になりますでしょう。いかに見込みを外したかというのがバレバレになってしまっているので、弱ったものだなと思いつながら、今日ここに立っております。

今日、午前中に面白い情報が流れていて、CNNの記者がツイートで流していたものなんです、それは何かというと、今日の朝、日米首脳会談があった。日米首脳会談はこの3カ月で3度目なんですよね。4月にワシントンでやつ